



京セラ株式会社

2024年3月期 第3四半期決算説明会

2024年2月1日

イベント概要

[企業名]	京セラ株式会社
[企業 ID]	6971
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2024 年 3 月期 第 3 四半期決算説明会
[決算期]	2024 年度 第 3 四半期
[日程]	2024 年 2 月 1 日
[時間]	17:00 – 17:35 (合計：35 分、登壇：11 分、質疑応答：24 分)
[開催場所]	インターネット配信
[登壇者]	2 名 代表取締役社長 谷本 秀夫 (以下、谷本) 執行役員 経営管理本部長 千田 浩章 (以下、千田)

登壇

司会：皆様、お待たせいたしました。本日はお忙しい中、京セラ株式会社のウェビナーにご参加いただき、誠にありがとうございます。ただ今より、2024年3月期第3四半期決算説明会を開催いたします。本日使用いたします資料は、当社ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

なお、本日のウェビナーは録画しております。あらかじめご了承ください。

それでは、最初に本日の出席者をご紹介します。代表取締役社長、谷本秀夫でございます。

谷本：谷本です。よろしくお願いいたします。

司会：執行役員 経営管理本部長、千田浩章でございます。

千田：千田です。よろしくお願いいたします。

司会：それでは、これより説明を開始します。谷本社長、よろしくお願いいたします。

谷本：平素は皆様大変お世話になり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本日は大変お忙しい中、当社決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

それでは、2024年3月期第3四半期決算説明会資料に沿ってご説明いたします。

1 2024年3月期 第3四半期 決算概要

2 2024年3月期 業績予想

3 政策保有株式の活用検討状況

資料の1ページをご覧ください。本日はこちらに記載のとおり、2024年3月期第3四半期決算概要、2024年3月期業績予想、政策保有株式の活用検討状況の順にご説明いたします。

それでは初めに、2024年3月期第3四半期の決算概要についてご説明いたします。

(単位：百万円)

	2023年3月期 第3四半期累計	2024年3月期 第3四半期累計	増減金額	増減率
売上高	1,526,497	1,492,672	-33,825	-2.2%
営業利益	113,884 (7.5%)	79,844 (5.3%)	-34,040	-29.9%
税引前利益	162,756 (10.7%)	125,638 (8.4%)	-37,118	-22.8%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	118,783 (7.8%)	90,366 (6.1%)	-28,417	-23.9%
平均為替 米ドル レート ユーロ	137円 141円	143円 155円		

注：（ ）内の数字は売上高比率

当社主要市場における需要減少、及び生産設備の稼働率低下等を主因に、減収減益

3 ページをご覧ください。

当第3四半期累計期間の売上高は、前年同期に比べ2.2%減少の1兆4,927億円となりました。営業利益は29.9%減少の798億円、税引前利益は22.8%減少の1,256億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は23.9%減少の904億円となりました。

当社の主要市場である半導体関連や情報通信関連市場における需要減少、および受注減少に伴う生産設備の稼働率低下などを主因に、減収減益となりました。

(単位：百万円)

	2023年3月期 第3四半期累計	2024年3月期 第3四半期累計	増減金額	増減率
設備投資額	127,137 (8.3%)	105,242 (7.1%)	-21,895	-17.2%
有形固定資産 減価償却費	80,330 (5.3%)	82,231 (5.5%)	1,901	2.4%
研究開発費	69,530 (4.6%)	77,481 (5.2%)	7,951	11.4%

注：（ ）内の数字は売上高比率

足元の需要状況に応じて、一部設備投資を来期以降へ延期

4 ページをご覧ください。

設備投資額は 1,052 億円、減価償却費は 822 億円、研究開発費は 775 億円となりました。

足元の需要状況に応じて、一部設備投資を来期以降へ延期したことなどにより、設備投資額が減少いたしました。

2024年3月期 第3四半期累計 事業セグメント別売上高



(単位：百万円)

事業セグメント別 売上高	2023年3月期 第3四半期累計		2024年3月期 第3四半期累計		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
コアコンポーネント	453,238	29.7%	432,152	29.0%	-21,086	-4.7%
産業・車載用部品	147,163	9.6%	167,216	11.2%	20,053	13.6%
半導体関連部品	284,764	18.7%	242,676	16.3%	-42,088	-14.8%
その他	21,311	1.4%	22,260	1.5%	949	4.5%
電子部品	290,538	19.1%	262,628	17.6%	-27,910	-9.6%
ソリューション	792,643	51.9%	810,476	54.3%	17,833	2.2%
機械工具	238,368	15.6%	235,406	15.8%	-2,962	-1.2%
ドキュメントソリューション	318,476	20.9%	325,934	21.8%	7,458	2.3%
コミュニケーション	147,155	9.6%	161,656	10.8%	14,501	9.9%
その他	88,644	5.8%	87,480	5.9%	-1,164	-1.3%
その他の事業	17,091	1.1%	14,176	0.9%	-2,915	-17.1%
調整及び消去	-27,013	-1.8%	-26,760	-1.8%	253	—
売上高	1,526,497	100.0%	1,492,672	100.0%	-33,825	-2.2%

5

© 2024 KYOCERA Corporation

5 ページをご覧ください。こちらは事業セグメント別売上高の一覧です。詳細については、後ほどご説明いたします。

2024年3月期 第3四半期累計 事業セグメント別利益



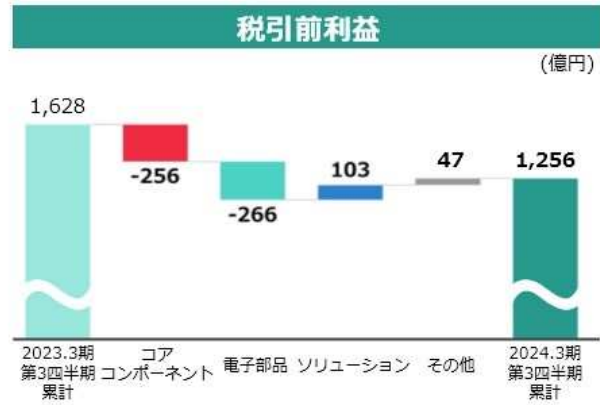
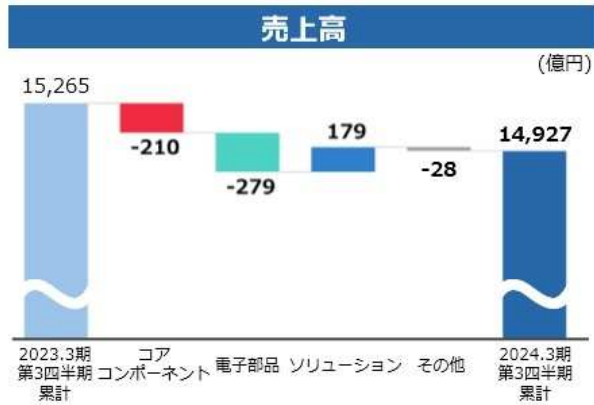
(単位：百万円)

事業セグメント別 利益	2023年3月期 第3四半期累計		2024年3月期 第3四半期累計		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
コアコンポーネント	71,148	15.7%	45,466	10.5%	-25,682	-36.1%
産業・車載用部品	17,685	12.0%	18,873	11.3%	1,188	6.7%
半導体関連部品	56,296	19.8%	26,388	10.9%	-29,908	-53.1%
その他	-2,833	—	205	0.9%	3,038	—
電子部品	39,572	13.6%	13,033	5.0%	-26,539	-67.1%
ソリューション	36,480	4.6%	46,817	5.8%	10,337	28.3%
機械工具	20,097	8.4%	12,742	5.4%	-7,355	-36.6%
ドキュメントソリューション	21,981	6.9%	28,653	8.8%	6,672	30.4%
コミュニケーション	-5,553	—	2,356	1.5%	7,909	—
その他	-45	—	3,066	3.5%	3,111	—
その他の事業	-20,016	—	-32,067	—	-12,051	—
事業利益 計	127,184	8.3%	73,249	4.9%	-53,935	-42.4%
本社部門損益等	35,572	—	52,389	—	16,817	47.3%
税引前利益	162,756	10.7%	125,638	8.4%	-37,118	-22.8%

6

© 2024 KYOCERA Corporation

6 ページをご覧ください。こちらは事業セグメント別利益の一覧です。



ソリューションが増収となったものの、コアコンポーネント及び電子部品における主要製品の需要減少の影響を主因に減収

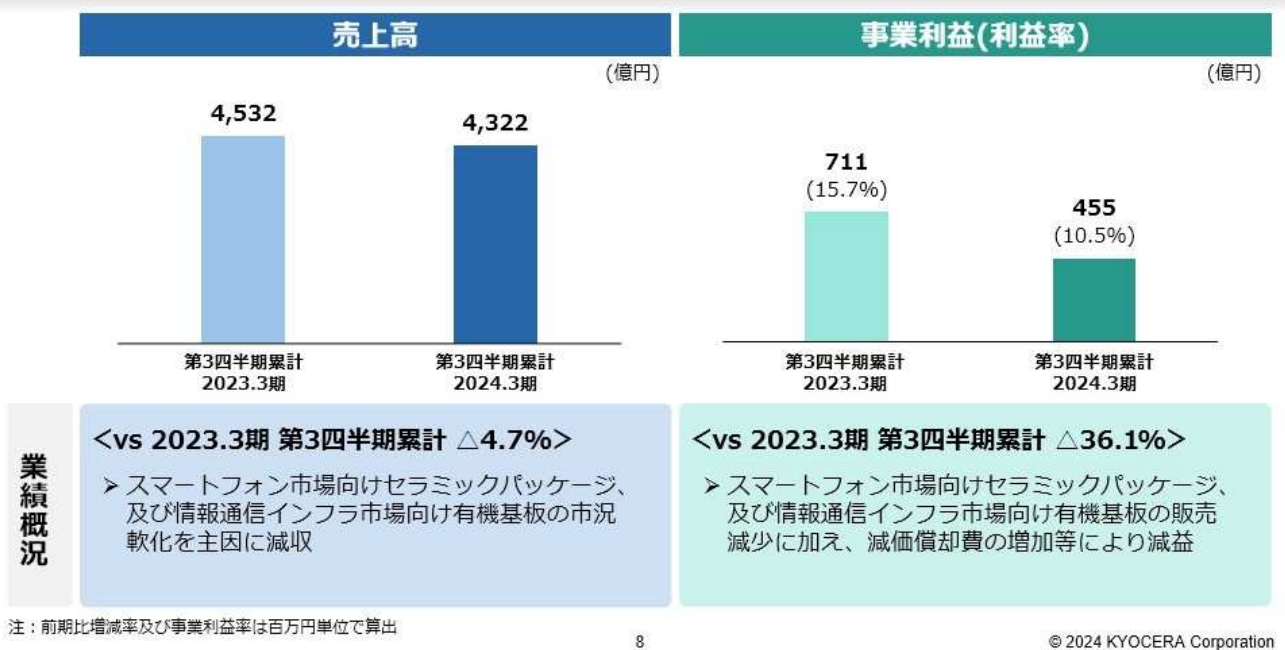
コアコンポーネント及び電子部品における受注減少に伴う生産設備の稼働率低下や、グループ全体の労務費・研究開発費の増加を主因に減益

7 ページをご覧ください。こちらは当第3四半期累計期間の実績サマリーを示しています。

スライド左側の売上高をご覧ください。事業セグメント別では、グラフ中央青色のソリューションは増収でしたが、コアコンポーネントと電子部品における主要製品の需要減少の影響を主因に減収となりました。

続いて、右側の税引前利益をご覧ください。売上高同様ソリューションは増加しましたが、コアコンポーネントと電子部品は減少しました。受注減少に伴う生産設備の稼働率低下や、グループ全体の労務費・研究開発費の増加を主因に減益となりました。

各セグメントの売上高及び利益の詳細を、次ページ以降でご説明いたします。



8 ページをご覧ください。まず、コアコンポーネントです。

当第3四半期累計期間の売上高は、4,322 億円となりました。スマートフォン市場向けセラミックパッケージ、および情報通信インフラ市場向け有機基板の市況が軟化したことを主因に減収となりました。

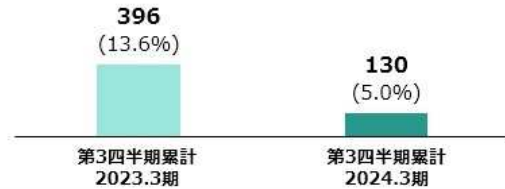
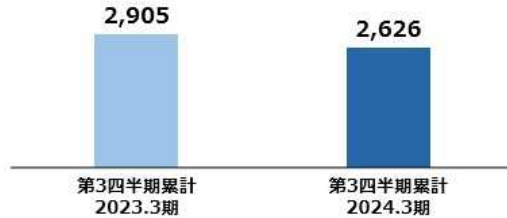
利益は 455 億円となりました。これらの製品の販売減少に加え、減価償却費の増加などにより減益となりました。

売上高

(億円)

事業利益(利益率)

(億円)



業績概況

<vs 2023.3期 第3四半期累計 Δ 9.6%>

➢ 情報通信市場向けコンデンサや水晶部品等における在庫調整、及び需要減少を主因に減収

<vs 2023.3期 第3四半期累計 Δ 67.1%>

➢ 稼働率の低下に伴う原価率の悪化に加えて、原材料費の上昇等の影響もあり、大幅減益

注：前期比増減率及び事業利益率は百万円単位で算出

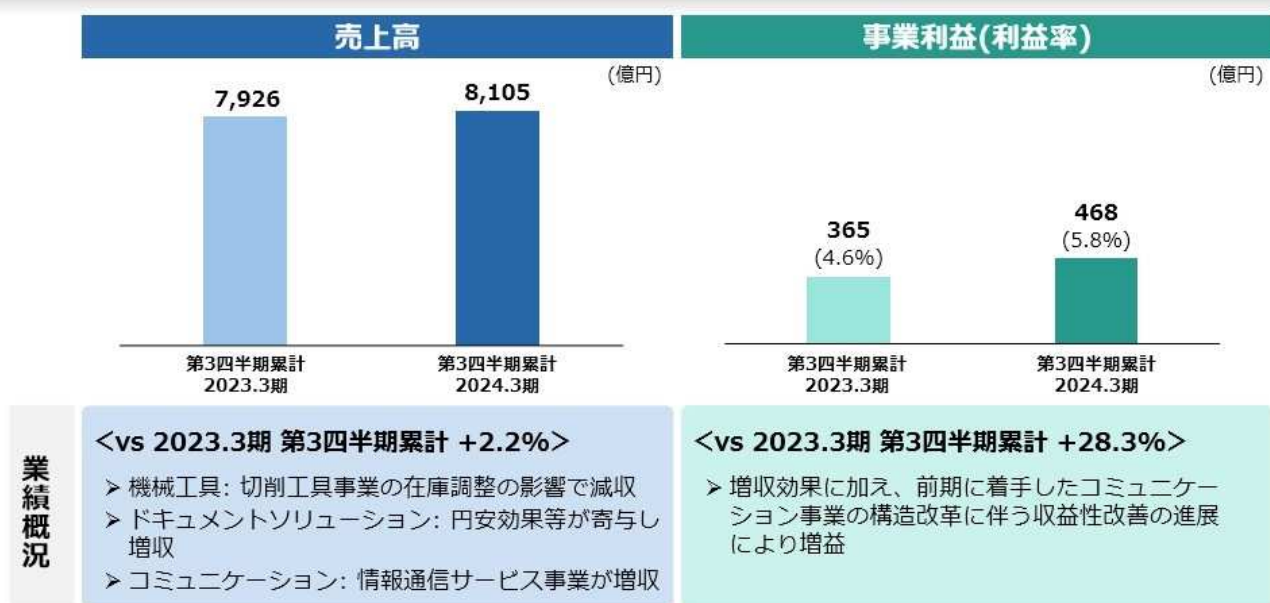
9

© 2024 KYOCERA Corporation

9 ページをご覧ください。続いて電子部品です。

当第3四半期累計期間の売上高は、2,626億円となりました。情報通信市場向けコンデンサや水晶部品などにおける在庫調整、および需要減少を主因に減収となりました。

利益については130億円となりました。稼働率の低下に伴う原価率の悪化に加えて、原材料費の上昇などの影響により、大幅な減益となりました。



注: 前期比増減率及び事業利益率は百万円単位で算出

10 ページをご覧ください。最後にソリューションです。

当第3四半期累計期間の売上高は、8,105億円となりました。機械工具事業の切削工具事業において、在庫調整の影響により減収となった一方、ドキュメントソリューション事業において、円安効果などが寄与し増収となったことに加え、コミュニケーション事業では、情報通信サービス事業が増収となり、セグメント全体では増収となりました。

利益は468億円となりました。増収効果に加え、前期に着手したコミュニケーション事業の構造改革に伴い、収益性の改善が進展したことにより増益となりました。

2024年3月期 業績予想 (1)



(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期予想		増減金額	
		前回予想 (11月公表)	今回予想 (2月公表)	前期比	前回予想比
売上高	2,025,332	2,050,000	2,000,000	-25,332	-50,000
営業利益	128,517 (6.3%)	120,000 (5.9%)	95,000 (4.8%)	-33,517	-25,000
税引前利益	176,192 (8.7%)	170,000 (8.3%)	140,000 (7.0%)	-36,192	-30,000
親会社の所有者に 帰属する当期利益	127,988 (6.3%)	123,000 (6.0%)	100,000 (5.0%)	-27,988	-23,000
基本的EPS(円)	89.15	86.89	70.76		
平均為替 米ドル	135円	140円	143円		
レート ユーロ	141円	152円	155円		

注1: () 内の数字は売上高比率
 注2: 2024年3月期予想の基本的EPSは前回予想は2024年3月期第2四半期累計、今回予想は同第3四半期累計の期中平均株式数を用いて算出(2024年1月の株式分割後の基準)

半導体関連や情報通信関連市場の回復が想定以上に遅れた影響により、通期予想を下方修正

続いて、2024年3月期業績予想についてご説明いたします。

12 ページをご覧ください。本日、2024年3月期の通期業績予想を修正いたしました。

世界経済の減速に加え、当社の主要市場である半導体関連や情報通信関連市場の回復が想定以上に遅れた影響により、当第3四半期累計期間の業績は想定を下回りました。

また、この厳しい事業環境は当第4四半期においても継続するものと考えており、売上高は前回予想から500億円減額の2兆円、営業利益は250億円減額の950億円、税引前利益は300億円減額の1,400億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は230億円減額の1,000億円へと売上、利益ともに下方修正いたしました。

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期予想		増減金額	
		前回予想 (11月公表)	今回予想 (2月公表)	前期比	前回予想比
設備投資額	173,901 (8.6%)	170,000 (8.3%)	160,000 (8.0%)	-13,901	-10,000
有形固定資産 減価償却費	108,757 (5.4%)	115,000 (5.6%)	115,000 (5.8%)	6,243	—
研究開発費	94,277 (4.7%)	106,000 (5.2%)	106,000 (5.3%)	11,723	—

注：（ ）内の数字は売上高比率

一部の設備投資を来期以降へ延期したことにより、設備投資額についても見直しを実施

13 ページをご覧ください。こちらは設備投資額、減価償却費、研究開発費の通期業績予想です。

一部の設備投資を来期以降へ延期したことにより、設備投資額につきましても、前回予想から 100 億円減額の 1,600 億円に見直しを行っております。

2024年3月期 事業セグメント別売上高予想



(単位：百万円)

事業セグメント別 売上高	2023年3月期		2024年3月期予想				増減金額	
	金額	構成比	前回予想 (11月公表)		今回予想 (2月公表)		前期比	前回予想比
			金額	構成比	金額	構成比		
コアコンポーネント	592,376	29.2%	567,000	27.6%	562,000	28.1%	-30,376	-5,000
産業・車載用部品	199,194	9.8%	221,000	10.8%	222,000	11.1%	22,806	1,000
半導体関連部品	364,579	18.0%	315,000	15.3%	310,000	15.5%	-54,579	-5,000
その他	28,603	1.4%	31,000	1.5%	30,000	1.5%	1,397	-1,000
電子部品	378,536	18.7%	358,000	17.5%	349,000	17.4%	-29,536	-9,000
ソリューション	1,068,597	52.8%	1,146,000	55.9%	1,109,000	55.5%	40,403	-37,000
機械工具	308,406	15.2%	325,000	15.8%	316,000	15.8%	7,594	-9,000
ドキュメントソリューション	434,914	21.5%	473,000	23.1%	457,000	22.9%	22,086	-16,000
コミュニケーション	207,793	10.3%	231,000	11.3%	223,000	11.2%	15,207	-8,000
その他	117,484	5.8%	117,000	5.7%	113,000	5.6%	-4,484	-4,000
その他の事業	23,403	1.2%	18,000	0.9%	18,000	0.9%	-5,403	—
調整及び消去	-37,580	-1.9%	-39,000	-1.9%	-38,000	-1.9%	-420	1,000
売上高	2,025,332	100.0%	2,050,000	100.0%	2,000,000	100.0%	-25,332	-50,000

14 ページをご覧ください。こちらは事業セグメント別の売上高の一覧です。

前回予想に対し、コアコンポーネントを 50 億円、電子部品を 90 億円、ソリューションを 370 億円下方修正しております。

2024年3月期 事業セグメント別利益予想



(単位：百万円)

事業セグメント別 利益	2023年3月期		2024年3月期予想				増減金額	
	金額	売上高比	前回予想 (11月公表)		今回予想 (2月公表)		前期比	前回予想比
			金額	売上高比	金額	売上高比		
コアコンポーネント	89,475	15.1%	65,000	11.5%	57,000	10.1%	-32,475	-8,000
産業・車載用部品	24,743	12.4%	24,500	11.1%	25,000	11.3%	257	500
半導体関連部品	67,702	18.6%	39,500	12.5%	31,000	10.0%	-36,702	-8,500
その他	-2,970	—	1,000	3.2%	1,000	3.3%	3,970	—
電子部品	44,064	11.6%	24,500	6.8%	15,000	4.3%	-29,064	-9,500
ソリューション	42,239	4.0%	85,000	7.4%	70,000	6.3%	27,761	-15,000
機械工具	23,279	7.5%	22,000	6.8%	17,000	5.4%	-6,279	-5,000
ドキュメントソリューション	33,706	7.8%	51,000	10.8%	45,000	9.8%	11,294	-6,000
コミュニケーション	-11,729	—	5,500	2.4%	5,000	2.2%	16,729	-500
その他	-3,017	—	6,500	5.6%	3,000	2.7%	6,017	-3,500
その他の事業	-28,795	—	-43,000	—	-44,000	—	-15,205	-1,000
事業利益 計	146,983	7.3%	131,500	6.4%	98,000	4.9%	-48,983	-33,500
本社部門損益等	29,209	—	38,500	—	42,000	—	12,791	3,500
税引前利益	176,192	8.7%	170,000	8.3%	140,000	7.0%	-36,192	-30,000

15 ページをご覧ください。こちらは事業セグメント別利益の一覧です。

前回予想に対し、コアコンポーネントを 80 億円、電子部品を 95 億円、ソリューションを 150 億円下方修正しております。足元では厳しい事業環境が継続しておりますが、来期以降の需要回復期に着実に収益改善につなげられるよう、引き続き増産体制の構築を図ると同時に、生産性向上に向けた取り組みを進めてまいります。

株式市場との対話を通じて認識した課題

『当社グループの更なる成長に向けて、政策保有株式を有効活用すべき』

今後の重要課題として具体的な施策を継続的に協議

半導体産業向け投資	戦略的M&A	経営基盤強化
<p>需要拡大を想定した生産能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 滋賀八日市工場 ◆ 鹿児島川内工場 ◆ 長崎諫早工場 (仮称) 	<p>高いシナジーが見込める事業領域を対象に検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 電子部品事業 ◆ 機械工具事業 等 	<p>DX投資・人的資本投資の更なる拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生成AIの業務導入 ◆ リスキリングの推進

資金需要の明確化も含め、今後の資本政策を2024年秋以降に公表予定

最後に、政策保有株式の活用検討状況についてご説明いたします。

17 ページをご覧ください。現在、当社では主要株主を含む株式市場との対話を通じて得ました「当社グループの更なる成長に向けて、政策保有株式を有効活用すべき」という課題認識のもと、今後の重要課題として具体的な施策を継続的に協議しております。

施策の1点目は、半導体産業向け投資です。2025年以降の需要拡大を想定し、生産能力の向上を図るべく、滋賀八日市工場、鹿児島川内工場の増設に加え、長崎県諫早市に工場を新設することで増産体制の構築を図ります。

2点目は、戦略的 M&A です。特に高いシナジーが見込める電子部品事業、機械工具事業などの事業領域を対象に検討を進めております。

3点目は、経営基盤の強化です。生成 AI の業務への導入や、社員のリスクリングを積極的に推進するべく、DX 投資・人的資本投資の更なる拡充を図ります。

なお、資金需要の明確化も含めました今後の資本政策につきましては、2024年秋以降に公表する予定です。

以上が私からのご説明となります。今後とも当社に対しまして、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

< 質問者 1 >

[Q]：まず1点目が、電子部品の利益が大幅に減少しておりますが、これを京セラ本体、KAVXに分けてご説明をお願いします。また、製品別ではMLCC、水晶、コネクタなどを主要製品に分けてどんな状況なのか、4Q以降どう変化するかご説明をお願いします。それが1点目でございます。

[A]：9カ月累計で京セラ電子部品の利益が前期比約110億円減少、KAVXが150億円減少で、減少幅はKAVXのほうが大きくなっております。主要製品の需要が落ちたのが両方の理由でございますが、KAVXが京セラ電子部品以上に落ちたのは、タイの新工場建設のため投資をしたところ需要が落ち、稼働がほとんどできないという状況で、KAVXが大きく落ちております。

製品別ですが、MLCCと水晶関連の発振部品の2つが需要減で大きく落ち込んでおります。それ以外のコネクタやタンタルコンデンサの減少幅は少なかったということでございます。

[Q]：ありがとうございます。1年前にMLCCの在庫調整は比較的早期に終わるが、水晶については時間がかかるというご説明をいただいておりますが、その状況がどう変化しているのかについてご説明をお願いします。

[A]：KAVXはヨーロッパの車載向けが非常に多く、車載メーカーの在庫調整はかなり進んだと聞いておりますが、代理店を使っておりますので、その代理店の在庫がまだ高止まりしているということで、もうしばらく在庫調整に時間がかかると聞いております。

京セラ電子部品ですが、MLCCは主に携帯電話向けでございます。携帯電話の生産台数は回復基調にあるのですが、増加するのがアフリカ向けやインド向けの低価格帯の携帯電話で、当社のコンデンサ部品があまり使われない領域の携帯電話ということで在庫調整が長引いております。一方、スマートフォンのAI搭載などにより、今春には若干上向くとの情報も入ってきております。

[Q]：今おっしゃられたのは、MLCCについてですか。

[A]：はい、MLCCです。

[Q]：ありがとうございます。質問の2点目が、KDDIとの関係についてです。KDDIとさまざまな分野で一緒に仕事をする機会が増えているのではないかと想像するのですが、これまでKDDIとの協業でどんな成果が出てきているのか、今後どのような分野で商品開発、協業が期待できるのか、

御社と KDDI が得意とする技術を持ち寄ることでどんなことが実現できそうなのか、について教えていただけますでしょうか。

[A]：既に発表済ですが、再生可能エネルギーを集めて、主に自社販売するというスキームで、KDDI と京セラで合同の会社を立ち上げ、再生可能エネルギーを集める仕事をスタートいたしました。これにつきましては、年々電力量が増えるにつれ、成長していきたく思います。

もう 1 点、5G のミリ波が活用しづらいということで、今 KDDI と一緒に検討を進めています。例えば、ミリ波の基地局 1 台でカバーできるエリアが非常に狭いため、リピーターを設置してミリ波基地局 1 台に対して活用できるエリアを広げようと、そのリピーターを KDDI 様と一緒に開発しています。

それとミリ波は非常に直進性が強いので、障害物の裏側に届けるための屈折板等の機器の開発についても一緒に進めており、ミリ波をどううまく使うかということで協業しています。

[Q]：今後については、そういった協業の幅、もしくは深度がより増していく方向だと考えてよろしいのでしょうか。

[A]：はい、そのとおりでございます。

<質問者 2 >

[Q]：政策保有株のスライドに関して二つ質問です。

一つ目は、去年発表された中計と比べたときの変化という意味で確認です。中計で発表された 5,000 億円の株式を担保にした借入に加えて、現在政策保有株式の売却の検討を進めているという理解でいいのかという点を確認させてください。

また、積極的な成長投資を検討される中で、仮に資金需要がそこまで無い場合には、例えば補助輪的な意味で、自社株買いによる還元も含めて ROE を上げるようなことも今まで以上に検討する選択肢をお持ちなのかどうか、その辺りの考え方も整理させてください。お願いします。

[A]：まず、担保にして借入するのはもう一部実行しておりますが、この秋に発表する時点で、全て 5,000 億円を借入れているわけではないと思いますので、どれくらい借入でどれくらい他の使い方をするかは、秋の時点で発表させていただくことになると思います。既に一部の借入は実施しており、それに加えての施策検討となります。その回答でよろしいでしょうか。

[Q]：その点は大丈夫です。

[A]：設備投資等については、今までより積極的に行うと思いますが、M&Aについては相手のあることですので、当社が思っているとおりにいかないことも想定されます。そういった場合、自社株買いは今期もいくらかやりましたが、今後も自社株買いも含めて考えていくことになると思います。

[Q]：今のニュアンスの確認です。第一には成長投資またはM&Aが将来に向けた良いお金の使い方だと思いますが、当然時間軸もありますし、どれくらい早く改善させるかもある中で、補助輪的な意味での積極的な自社株買い等の選択肢も出てくるという考え方でよろしいですか。

[A]：はい、結構です。

[Q]：わかりました。二つ目ですが、中計を掲げられてから1年、残念ながら事業環境が変わっていますが、中計最終年2025年度の目標値は変更しないと考えてよろしいですか。

[A]：はい、秋ぐらいになると半導体関連がどれくらい上がってくるかははっきりすると思いますが、来年度、カレンダーイヤーの2025年はかなり半導体が上がると当社顧客から情報を頂いております。そのため、今の時点ではまだFY26(2025年度)の目標値は変えておりません。

[Q]：なるほど。中計達成に向けて新たな事業環境への対応、及び株式市場からの要求に対する追加的な手段を打っていくという考え方でいいですか。

[A]：はい、そうでございます。

<質問者3>

[Q]：まず一つ目が、今回の業績の下方修正における内容を、セグメントごとに詳細を教えてくださいませんか。特に利益変化額が大きい半導体関連部品、電子部品、機械工具、ドキュメント、この4セグメントにおきまして、利益下振れの中身について、なぜこういう金額になっているのか教えてください。

[A]：まず、コアコンポーネントの半導体関連でございますが、14ページの産業・車載用部品に入っている半導体製造装置関連の部品は微増でございました。一方、スマートフォン用の水晶振動子あるいはSAWフィルタに用いられますセラミックパッケージが大幅に落ちたのと、もう一つはデータセンター等に使用しております半導体用のパッケージ、有機基板が大きく落ちたことで、この数字になったというのがコアコンポーネントでございます。

機械工具は、日本の自動車は比較的順調に回復したのですが、特にアジア向けの切削工具は流通在庫の影響で販売が伸びておりませんでした。現在流通在庫は落ち着き、少し上がる基調が見えてきたという状況でございます。

ドキュメントにつきましては、円安効果がかなりあり期待していましたが、実際の販売量があまり上がらなかったということでございます。

[Q]：今のお話からすると、ドキュメントの実態として純粋に下振れということですが、要因については市場要因、及び在庫循環による影響が大きいという理解ですか。

[A]：はい。そうでございます。

[Q]：わかりました。利益の水準が以前に比べてだいぶ下がってしまっておりますが、この在庫循環等の影響の中で、隠れてしまっている本質的な悪化がないかどうか、他のリスクについて現状の認識を教えてくださいませんか。

[A]：まずコアコンポーネントは、これは純粋に需要が落ちたということで、事業としてわれわれの収益性が落ちているとか、そういったことは基本的にはないと思いますので、需要が上がれば利益も比例して上がると思います。

電子部品はもともとシェアがあまり高くないということで、シェアが高いタンタルコンデンサは需要が戻ればすぐ戻るとは思いますが、MLCCが回復基調になったとき、われわれも同じレベルで回復していくかというのは、少々心配しているところでございます。全体が上がっていく中で、市場の不足感が出てこないと当社への受注は戻ってこないのかなというような若干心配をしております。

それと機械工具については、これも在庫調整が終われば戻っていくと考えております。

[Q]：ドキュメントはいかがでしょうか。

[A]：ドキュメントは市場自体がもう完全に飽和しておりますので、売上を上げるためシェアを上げる計画をしたのですが、思ったほど上げられなかったということで、やはり捺染プリンターや産業用プリンターの方に少し軸足を置く必要があるかと思っております。

<質問者 4 >

[Q]：まず電子部品に関して、御社も含めた MLCC や水晶部品の回復感が出てくる時期などについて、何か今お考えの時期等ありましたら教えていただけますでしょうか。併せてセラミックパッケージも、やはり水晶などが回復してこない、なかなか回復が難しいのか、この点についても教えていただければと思います。

[A]：先ほど申し上げましたとおり、京セラ電子部品の MLCC と水晶は、携帯電話の比率が非常に高く、しかも比較的高級機種に使われている数が多いということで、高級機種が増えないと需要が増加しないという状況でございます。季節要因的に夏場に向けて生産が上がって、クリスマス商戦に向けて作り込んで冬場に落ちるといった傾向があるのですが、それに合わせるような形で今年の夏場に向けては上がっていくと思います。

それと、先般 AI の入った携帯電話が出始めましたので、AI の入った高級機種が増えればさらにいい方向に行くだろうと考えております。

[Q]：ありがとうございます。水晶についてはいかがでしょうか。

[A]：水晶もほぼ同じでございます。携帯電話関係が圧倒的に多いということで、同じような動きが想定され、また一部ヨーロッパ等で車載関係にも使われておりますので、今ヨーロッパの景気があまりよろしくないで少し苦戦しておりますが、車載関係での採用数を増やせるように認定を取っていきたいと思っております。

[Q]：ありがとうございます。二つ目の質問になるのですが、今後の設備投資のイメージについて改めて教えていただければと思います。先ほど積極的に半導体関連を伸ばしていきたいというお話もありましたが、来年度以降を考える上では、中計で掲げていらっしゃるかなり大規模な規模感を維持されるのか、それとも多少の調整が出てくるのか、こちらについて確認させてください。

[A]：半導体関連への積極的な投資は続けるつもりでございますが、特に有機パッケージについては明らかに 1 年足踏みをしましたので、全体の投資額は変えるつもりないのですが、1 年ぐらい後ろにずれる可能性はあると思います。

一方、半導体製造装置用部品の投資につきましては、フォーキャストレベルではかなり増えるという情報をいただいておりますので、こちらは遅れないように計画どおりの投資をしていこうと思っております。

以上

注記

当資料は、SCRIPTS Asia 株式会社によって録音・書き起こしされたものを当社にて一部編集したものです。

将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての2024年3月期第3四半期決算説明会開催日（2024年2月1日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。詳細は、当社ホームページに掲載の「将来の見通しに関する記述等について」をご参照ください（<https://www.kyocera.co.jp/ir/disclaimer.html>）。